

令和元年度 あまっこ部会活動報告

あまっこ部会長 妹尾 眞里

令和元年度 開催状況

- 令和元年度、あまっこ部会は全体で12回開催した。
- 第5期尼崎市障害福祉計画では「医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置」を平成30年度までの設置を目標としており、平成31年度から、あまっこ部会において「医療的ケア児支援部会」を新たに設定することとなった。

令和元年度 開催状況

- 定例会議と、医療的ケア児支援部会の開催を合わせて月1回程度開催できるよう予定。
- 事務局会議への振り替えや、新型コロナウイルス感染予防対策のため、中止を余儀なくされた回もあった。
- そのため、定例会議を6回（内1回は作業部会）、事務局会議を3回、医療的ケア児支援部会は事務局会議、コアメンバー会議、定例会議の計3回を開催し、全体で12回の開催となった。

令和元年度 開催状況

- あまっこファイル書き方教室は3回開催し、のべ10名が参加。相談会は計7回開催し、参加者があったのは1回、1名の参加となった。

令和元年度 開催状況

• 定例会議

5/13	13:30~15:50	第1回 あまっこ部会 自己紹介 全体会確認 いくしあの案内 年間スケジュール	研修室
6/10	13:30~15:50	第2回 あまっこ部会 (ワーキング) あまっこファイルリニューアル作業	研修室
7/8	13:30~15:50	第3回 あまっこ部会 あまっこファイルリニューアル修正 医ケア支援部会について あまっこファイルアンケートの内容について	研修室
8/19	13:30~15:50	第4回 あまっこ部会 あまっこファイルリニューアル最終確認 アンケート内容、方法、活かし方 医ケア支援部会の構成メンバーについて	研修室
11/11	13:30~15:50	第5回 あまっこ部会 あまっこファイルリニューアル完成 発行部数等検討 チラシの リニューアルについて アンケート内容の検討	研修室
1/20	13:30~15:50	第6回 あまっこ部会 アンケート、チラシ案確認 今後のあまっこ部会の取り組み	研修室

令和元年度 開催状況

• 事務局会議

10/7	13:30~15:30	あまっこファイルリニューアル版の改定作業	研修室
1/20	15:30~16:30	来年度の開催頻度について	研修室
2/17	13:30~15:00	あまっこファイル啓発の具体化 来年度の予定について	研修室

令和元年度 開催状況

・医療的ケア児支援部会

6/27	18:30~20:00	コアメンバー会議	医療的ケア児支援に係る取り組みと現状 今年度の協議項目・内容について 部会のメンバー構成について 今後のスケジュール等について	北部保健福祉センター
9/5	18:00~20:00	医療的ケア児支援部会	第1回医療的ケア児支援部会	北部保健福祉センター
2/12	14:00~15:15	事務局会議	今後の医ケア部会の方向性について	県立尼崎 総合医療センター 4F会議室

令和元年度の活動（1）

あまっこファイルリニューアルについて

- ・前年度では、あまっこファイルの内容のリニューアルについて、大切にしたいことを再確認し、丁寧に意見交換を行った。
- ・6月の作業部会で一定リニューアルしたものを作成。「わたしの願い」「保護者の願い」のページを追加した。

あまっこファイルの課題について① チラシの見直し

- あまっこファイルがまだ周知されていないことが課題になっているため、これまでの相談会や教室に参加された方の意見を再考した。
- 相談会や教室では、昨年度報告の通り、作ってみての感想や、書き方教室、相談会に対してはおおむね良好な意見。
- このような生の意見を、現在あるあまっこファイルの案内用のチラシにもっと盛り込み、あまっこファイルを作成することや、教室、相談会に興味を持っていただけるよう、チラシの内容を変更。

あまっこファイルの課題について② アンケートの見直し

- あまっこファイルに対するアンケートは、相談会や教室でおこなっており、そこで初めてあまっこファイルを作る方も多いため、作ってみたときの感想は聴取できるが、実際に使ってみてどうだったかの意見が集められていないことも課題であった。調査方法について協議。

あまっこファイルの課題について② アンケートの見直し

- 実際の意見を聞き取りやすいよう、アンケートの配布先をまずは教室や相談会を受けた方に絞ることとした。内容については、新たな進路先に渡してどうだったかを聞き取れるようなものを検討した。
- アンケートは、未就学児と、年齢を問わないものでそれぞれに分けた内容にして2種作成した。

あまっこファイルの課題について② アンケートの見直し

1. 年齢層
2. 作成時について
 - 作ろうとおもったきっかけ
 - 一緒につくった保護者がご本人に内容について確認したことがあるか
 - 確認したページや項目
 - その時のお子さんの反応はどうだったか
3. 活用後の様子について
 - 作ったものをどんな機関・人に渡したか
 - どのような時期に渡したか、渡してみてどうだったか

あまっこファイルの課題について② アンケートの見直し

- これまでの意見を参考にした選択項目と、自由記載ができる内容に変更
- 今後、児童発達支援センターに協力を仰ぎ、配布を行っていく。
- あまっこファイルのリニューアル版は、現在、ホームページでダウンロードができる。「あまっこファイル」で検索可能。
- 発行部数について整理し、現在、発行準備を進めている。

令和元年度の活動（2） 医療的ケア児支援部会について

- 医療的ケア児支援部会の発足に先立ち、コアメンバー（尼崎市医師会、尼崎市障害福祉政策担当、尼崎市北部障害者支援課、尼崎市基幹相談支援センター）で支援部会の設置について情報共有をおこなった。
- あまっこ部会で新たな関係機関を構成メンバーに加えて行うこととし、コアメンバーからの参加となった尼崎市医師会、県立尼崎総合医療センターに加え、あまよう特別支援学校、訪問看護ステーション、基幹相談支援センターなどの新メンバーについて協議を行った。

令和元年度の活動（2）

医療的ケア児支援部会について

- まずは医療的ケア児についての実態把握の状況、NICUなどを退院する医療的ケアが必要なお子さんの退院に向けた連携についての現状について、コアメンバー間で情報共有を行い、取り組みたい課題について意見交換を行った。

第1回医療的ケア児支援部会

- 構成メンバー

学識経験者（木下会長）

尼崎市医師会 県立尼崎総合医療センター小児科

阪神南圏域コーディネーター あまよう特別支援学校

訪問看護ステーション 基幹相談支援センター

尼崎市健康増進課 尼崎市教育委員会特別支援教育担当

- 事務局：尼崎市立たじかの園、尼崎市障害福祉担当障害者政策担当、南北保健福祉センター障害者支援課、保健所疾病対策課

第1回医療的ケア児支援部会

- 医療的ケア児支援にかかる取り組みと現状、今年度の協議項目や内容について意見交換
- 多岐にわたる課題があがり、協議項目や課題を事務局で整理
- 医療的ケア児の退院に向けた支援の実情を報告し、プロセスの妥当性について協議を行うことを提案

医療的ケア児の退院に向けた支援の実情について

- ① 県立尼崎総合医療センターのメディカルソーシャルワーカーから障害者支援課や地域保健課に退院時カンファレンスへの参加依頼を受け、本人家族の状況や退院後必要な支援を確認。
- ② 障害者支援課の地区担当者が情報共有し、支援の見立てを行う。必要に応じて関係部署へも打ち合わせる。
- ③ 障害福祉サービス等の給付担当、基幹担当へ情報共有し、カンファレンスに備える。

医療的ケア児の 退院に向けた支援の実情について

- ④ カンファレンスに参加。病院関係者の他、訪問看護ステーション、障害児通所支援事業所、行政が参加することが多い。基幹相談支援センターより最短で制度が使えるよう、情報提供。退院後にサービスが必要な場合は、入院中にサービスを利用するための調査を行う
- ⑤ カンファレンス内容を庁内で課題整理。カンファレンス時点で、医療的ケアのコーディネートができる相談支援専門員が参加できていないことが課題になっている。

医療的ケア児の 退院に向けた支援の実情について

- ⑥ 必要に応じてサービスの支給決定を行う。
- ⑦ 状況確認後、新たな相談があれば、その都度対応

医療的ケア児の 退院に向けた支援の実情について

- 医療的ケア児のレスパイト、通所支援などの社会資源の不足やコーディネートについて、具体的に進めていけるのか？



- 国の指針では、医療、障害、保健、保育、教育それぞれで取り組むべき課題として整理して示されており、この支援部会では、そういった関係機関との連携を通じて協議していく場であることを整理
- より解決に進む場とすべき、という意見もあり、協議会としての役割について丁寧に確認

医療的ケア児支援における現状の課題

- 重度の医療的ケア児への支援→対象となる児の像の定義を行う
- レスパイト、通所支援等の資源不足
- 保育所、学校などの受け入れガイドライン
- 中途障害児への対応
- 在宅医（診療所、病院）や訪問看護ステーションの利用状況の偏り
- 在宅システムの啓発
- コーディネーターの不足とフォローアップ
- 災害時対応
- 経済面

…など多岐にわたった内容が挙げられた。

第1回医療的ケア児支援部会 まとめ

- まずは、入院先から地域へ帰ってくる方が退院する時のスキーム作りを優先して考えていく
- 市としてのシステム作りにつながる具体性を持った取り組みを検討する
- リアリティが感じられる意見交換を行うことを目指し、行政としてできること、難しいこととの間の壁があることを考えつつ、例えば呼吸器を使っているこどものサービスデザインモデルを通じて具体的に検討し、この対応で良いのかなど、多岐にわたる課題と現状についての意見交換を通じて全体像として積み上げる方法で取り組んではどうか。

今後のあまっこ部会について

今後取り組んでいきたい課題について広く意見交換をした。

- こどもたちの居場所について
 - 未就学児のこどもたちが過ごせる場
 - 中高生の居場所
 - 重度障害児の居場所づくり、様々な課題を考える場

今後のあまっこ部会について

- 関係機関連携
 - 福祉と教育の連携
 - いくしあの役割、関係機関との連携
 - 幼稚園、保育所での課題
 - 不登校の児童への支援
 - 連携につながるあまっこファイルの啓発、活用の方法について
 - 学習面のサポート資源
 - 放課後デイの役割で学習支援をどこまで担うべきか

今後のあまっこ部会について

- 家族支援
 - 子育て相談の場
 - レスパイト資源の不足

今後のあまっこ部会について

- あまっこファイルについては、教室や相談会の参加者増を目指し、いくしあの行事や事業とタイアップして開催する方法や出前講座を検討。あまっこファイル増刷後は、障害児通所支援事業所や相談支援事業所への紹介の他、保健所から幼稚園や保育所への情報提供時に用いてもらうよう働きかけるなどの方法を協議中。
- また、新たに取り組む課題は多岐にわたっており、翌年度に向け、出来るだけ障害種別を問わずに検討できるテーマについて再度検討していきたい。